



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	<研究ノート>ロシア昔話の話型目録編集をめぐって
Author(s)	宮廻, 和男; Miyasako, Kazuo
Citation	スラヴ研究, 39, 223-246
Issue Date	1992
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/5209
Type	departmental bulletin paper
File Information	KJ00000113346.pdf



ロシア昔話の話型目録編集をめぐる

宮 廻 和 男

1 はじめに

近年、昔話⁽¹⁾の研究は一種のブームである。国内では6万とも7万ともいわれる資料の整理が行われた。また、外国の昔話集も多く翻訳され、ますます研究が促進されることになろう。

しかしながら、実際の<テキスト>の分析や分類は熱心に行われる(つまり共時的研究)が、これまでの研究の足取りをまとめようとする動き(つまり通時的研究)は極めて少ない。学説史研究の視点が極めて欠如している。幸いにも、国内のロシア・フォークロア研究では、坂内⁽²⁾らの優れた学説史研究があり、昔話研究は通時的にも共時的にも他地域の研究に先んじているといっても過言ではない。ロシア・フォークロアほど多面的な研究が展開しているフォークロア研究は、国内ではまれである。

ところが、ロシア・ソヴィエト研究に限らず、こうした学説史研究は普通<一国>研究史であり、国際的な視野に立つものではない。例えば、昔話の研究では一国の研究史も重要であるが、今世紀初頭に創立されたFolklore Fellows (FF)や戦後のInternational Society for Folk - Narrative Research (ISFNR)の活動も考慮にいれるならば、国際的な研究史の中で<一国>研究史を検討する必要性がある。つまり、各国の研究の<国際関係論>を構築していくことが重要ではなかろうか。

このような試みは、戦後すでにスティス・トンプソン (Stith Thompson)らアメリカの研究者によってなされている⁽³⁾。しかし、彼らの研究では、ロシア・ソヴィエトはほとんど射程外である。

さて、このような視点からフォークロア研究の<国際関係論>の一環の構築を試みたい。もちろん、全体論を扱うことは、ここでは不可能である。従って、本稿では昔話の「話型目録」⁽⁴⁾編集に焦点をあて、国際的な動向の中でのロシア・フォークロア史における昔話の「話型目録」編集作業を跡付けていくことにする。全体論は今後の課題のひとつである⁽⁵⁾。

2 昔話の「話型目録」

ヨーロッパにおける本格的な昔話集は、19世紀半ばから出版が始まる。ドイツではすでに1812年にグリム (Grimm) 兄弟によってグリム昔話集が出版され、1819年、1837年、1840年、1843年、1850年、1857年と版を重ねた。ロシアではアフナーシエフ (Афанасьев) が1855年から昔話集を出版する。そのほか、例えば、ノルウェーではP. アスビヨルンセン (Asbjørnsen) が1845年から、フランスではE. コスカン (Cosquin) が1886

年に、スコットランドではF. キャンベル (Campbell) が1860年に昔話集を出版している。このような昔話の研究は、1812年のグリム兄弟の昔話集出版以降、本格的に取り組み、19世紀には「神話学派」、「民族学派」、「インド学派」などの有力な研究グループを生み出すことになった。

19世紀末になり、従来の研究が未熟なものであるという反省と批判が強まり、確固たる基礎を持つ研究組織を作り上げ、「科学的な」研究(昔話を含む民間説話全般の)を試みる動きが強まる。そして、「信頼に足る資料の収集とすでに利用できる資料の観察と経験をふまえた偏りのない研究」⁽⁶⁾を行うべく一層の努力がなされ始めた⁽⁷⁾。

その結果、莫大な資料が収集され、民間説話研究者は膨大な、さまざまな形式の、そして境界線を越えた資料を実地に調べなければならない、という実に困った問題に直面することになる。そこで、資料を植物学のように万国共通の分類方法で整理し、研究のために利用しようという考えがでてくる。つまり、あらゆる学問の分野が真の研究対象となるためには、まず分類が必要だというのである。

この点に関しては、トンプソンの弁を引用しておく。

「民間説話についていえば、分析と秩序ある整理とが長い間欠けていたためにきわめて混乱した議論が生まれたし、多くの19世紀の民俗学者の特徴であった、未熟で考察の不十分な理論づけの横行も、この分析と秩序ある整理の欠如という同じ理由によるものであった。口頭伝承説話の研究者が取り扱う資料は、その量が膨大で、形式が雑多であり、地理的にも歴史的にもきわめて広く分布しているので、直接資料全部を実地に知ることには一人の人間の力ではとうてい不可能である。この広大な地域のなかで直接調査旅行に行ける範囲は限られているとすれば、少なくとも全体像をふまえた正しい方向づけのための要求に応じられるような地図が必要となる。」⁽⁸⁾

さらに、こうした研究上の「地図」を作製することについても、「科学的分類が主として実際に用いられるのは一覧表や目録作成の時である。…世界中の採集された民間説話の全集成を研究のために利用できるようにすることは可能なはずである。これはある特定の国や地域の資料を網羅する、余すところなき目録によって完全に果たすことができる。このような目録のためには、誰にでも、論理的に納得できる、そして完全だと納得できるような分類法がなければならない。それらはまたこの資料に対しても適用でき、容易に覚えられ使用できるもので、あまり負担になるようなものであってはならない。」⁽⁹⁾

と述べている。

この「地図作り」とは、昔話を一定の筋のもとに分類し、カタログ化する作業をいう。そして、昔話の一定の筋を『話型』(type)と呼び、カタログのことを『目録』(index)と呼ぶ。本稿で論ずる『話型目録』(Type Index)とは、このような昔話のカタログを指すのである(表1)。

昔話の話型の目録化は、すでに前世紀半ばから試みられている。例えば、イギリスのG. ゴンム(Gomme)の『フォークロア手帳』(1890年)ではベアリング-グウルド(Baring-Gould)の分類を紹介している。これは昔話を70の「話型」に分類している。しかし、ゴンムは「このリストは包括的なものではない。とりわけ未開民族の説話が考慮されると

きにはそうである」⁽¹⁰⁾としている。これは前世紀に試みられた分類の多くに当てはまる問題である。すなわち、国際的な研究交流が不十分であり、資料も自国の貧弱な数に限定され、研究を促進するものではなかった。

このような状況は、今世紀初頭に、当時ロシア帝国の統治下にあったフィンランドの研究者たちによって打破されることになる。当時フィンランドでは、民族叙事詩「カレヴァラ」の研究が進められていた。その中心にいたK. クローン (Krohn) は民間伝承の包括的な分類の最重要性を認識していた。そして、その仕事は高弟のアンティ・アアルネ (Antti Aarne) に委ねられる。

本格的な話型目録の編集が、ロシア帝国統治下で行われていたことは以外と無視されている。1900年頃にはJ. シベリウス (Sibelius) によって「フィンランディア」が作曲されており、まさにアアルネの編集作業は独立運動の渦中で行われていたのである。彼の話型目録の編集がフィンランドのナショナリズムと密接に結び付いており、ロシアからの独立運動と関係していることを想像できなくもない。

また、アアルネの経歴にも注目すべき点がある。K. クローンによる伝記によれば⁽¹¹⁾、アアルネは1867年にフィンランドのポリに生まれた。1893年に大学終了後、1898年までモスクワでロシア語研究に励む。留学中3年間、大学から奨学金をうけとるほどの成績であったらしい。モスクワでの彼の研究については次のように述べられている。

「こうした(モスクワでの)研究を通して彼はロシア語教師にはならず、フィンランドの大学在学中に興味をもったフィンランド語と民間説話の研究領域に入るようになった。モスクワでの彼の教官であったソコロフ教授も民間説話には興味をもっていたが、語学の訓練のために民間説話の領域でのフィンランド語の研究をロシア語に翻訳するように提案した。」⁽¹²⁾モスクワ滞在中のアアルネについてはほとんど知られていないが、クローンによれば、1897年にすでに昔話研究を本格的に始めており、直面する問題を手紙にしたためている。また、モスクワ滞在の最後にはフィンランドの民間伝承研究の動向を民族学会で報告している。1989年3月19日付けのアアルネの手紙には、「フィンランドでは民間説話の研究が熱心に行われ、とても豊富な計画に従って研究されていることに、参加者はたいそう驚いていました」と書いている⁽¹³⁾。この報告は『民族学論評』に掲載されている(筆者未見)。モスクワで本格化した昔話研究は、帰国後大きく展開する。フィンランド文化の新興を若者に期待し、高校でのドイツ語教師の職につきながら、昔話研究を深めることになった。その後のアアルネの経歴については関 1969: 113 - 120 に委ねるが、1899年以降帝政ロシアのフィンランドへの圧迫が強まる中、その政策に反発したアアルネはロシア語教師になることはなかった。しかし、ロシアでの研究とロシア語の知識は、不滅の昔話研究として実るのである。

今世紀初頭のアアルネは、ドイツや北欧諸国の研究者と交流を深める。ロシアの研究者たちとの交流がほとんど跡絶える点は、1905年のロシア革命などを背景にフィンランドでも反ロシアの動きが日増しに強まったことも考えられるが、今後検討する必要があるだろう。

帰国後のアアルネの成果のひとつとして(そして今日の昔話研究にとっても記念碑的事業として標されなければならないが)、1905年にクローンらとともにFolklore Fellows

(FF)を設立したことを忘れてはならない。それは国際的な研究機関として機能することになる。とりわけこの機関の重要な任務は、1907年に創刊されたFolklore Fellows Communications (FFC)¹¹⁾の発行である。このFFC3号(1910年)にアアルネが発表する「昔話の目録」が、以後の「話型目録」の雛形となるのである。

アアルネの「昔話の目録」は、ヘルシンキのO. ハックマン(Hackman)、コペンハーゲンのA. オルリク(Olrik)、ベルリンのJ. ボルテ(Bolte)、ルンドのC. W. フォン・シュドウ(von Sydow)の援助なしには完成しなかったとしばしばいわれる。また、彼の編集にはロシアでの研究成果もみてとれる。

この話型目録が前世紀のものと大きく異なる点は、昔話を三つに大別したことにあり、「動物昔話」(Tiermärchen)、「本格昔話」(Eigentliche Märchen)、「笑話」(Schwänke)となっている。これはアフナーシェフの昔話集の編集にヒントを得ていることは明らかである。グリムの昔話集では昔話はただ整然と並べられているにすぎないが、アフナーシェフの場合は第二版から、このような三大分類に体系的に配置される。

アアルネは一定の話に番号を添えて分類するというを試みた。「動物昔話」はNo. 1 - 299、「本格昔話」はNo. 300 - 1199、「笑話」はNo. 1200 - 1999とし、将来の増補を考慮し、それぞれの分類内には「欠番」を確保しておいた。表2からわかるように、番号-昔話名-筋の順で構成されていて、ところどころにグリムの昔話の番号(KHMで示される)が比較参考として掲げられている。他の民族の昔話に関しては何ら言及がない。そのためもあって、発表当時はこの話型目録はまったく関心と呼ばなかった。実際にこの話型目録の有効性が認められるのは、FFC5号(1911年)でアアルネが「フィンランドの昔話の類話」を、FFC6号(1911年)でハックマンが「フィンランド系スウェーデン人の昔話のカタログ」を発表してからであった。

この分類をロシアの昔話に応用したのは、アアルネの「グリム、グルントヴィッヒ、アフナーシェフ、ゴンツェンバッハ、ハーンの昔話集のなかで、互いに一致する昔話について」(FFC12号, 1912年)が最初であった。これにはアフナーシェフの昔話集の1860年から出版された初版を利用し、分冊ごとにそれぞれの昔話に対して話型目録の番号を付している(表3)。

もちろん、このアアルネの分類は、彼らの研究方法による分析を促進する目的が最終的にはある。いわゆる「歴史・地理学派」とか「フィンランド学派」と呼ばれる一派であり、「歴史・地理学的方法」によって、昔話の原型と起源を探る方法である。この方法論についてはAarne 1913とThompson 1946の邦訳などを参照されたい。しかし、この話型目録はその最終目的は別としても、昔話の分類と整理に世界中で使用され始めた。

これとは別にアフナーシェフを資料として使ったものに、ボルテとG. ポリフカ(Polivka)の『グリム兄弟のこどもと家庭の昔話集への注釈』(1912 - 1918年)がある。これは、話型目録ではなく、グリムの昔話集の一話一話に対する膨大な注釈書であり、他民族の昔話集の類似の話を記載している。これにはアフナーシェフ以外のロシアの昔話も利用されている。

アアルネの分類についてはプロップ(Пропп)が批判をしているが、これに関しては後述する。

3 ロシア・ソヴィエトにおける話型目録編集

3. 1 A. M. スミルノフ(Смирнов)

ロシアでも前世紀からすでに、話型目録編集は試みられてきている。M. H. マカロフ(Макаров)、И. П. サハロフ(Сахаров)、Л. З. コルマチェフスキー(Колмачевский)、П. В. ウラジミール(Владимиров)らが話型目録に準ずるものを作成した。彼らの作業は多様な話の筋をさらに共通な筋で、数的に限定されたグループにまとめるものであるが、決して学術的なレベルの高いものではなかった。しかし、ヨーロッパの研究者に遅れるものではなかった点は評価されてよい。

今世紀におけるロシア昔話の話型目録編集は、アアルネと時を同じくして、A. M. スミルノフによって発表された。彼の話型目録は1911、1912、1914年の3回にわけて、Известия ОРЯСに「ロシア民間昔話のテーマと類話の体系索引」と題して掲載されている(表4)。使用された資料はロシア昔話22冊、白ロシア昔話6冊、ウクライナ10冊となっている。これは、「動物昔話」「動物と人間」「不浄な力との戦い」に三区分される(それぞれ、1911、1912、1914年に掲載)。アアルネの話型目録と比べれば、明らかに稚拙なものである。通し番号が付けられていないため、これを実用に供するにはあまりにも不便であった。「不浄な力との戦い」では、ローマ数字でいくつかの話に分類され(「カリン橋のたもとの戦い」「地下の王国」など)、さらに下位区分される。「地下の王国」などは、「第1類話」から「第4類話」に下位区分され、最初のふたつの類話では、さらに下位区分がされる。例えば、第1類話では「1. 大蛇 2. ツモーク 3. 龍巻 4. コクツイ 5. 妖術使い 6. コシチェイ 7. 悪魔」に分けられている。このような分類について、プロップは「たとえ相対的にであっても、そこに明解さをもたらすものが分類体系であると思えない」⁽¹⁵⁾と指摘している。つまり、実用上も研究上も低いレベルのものであったということになる。しかも、この話型目録は未完成であった。

3. 2 A. F. フォン・レーヴィス・オブ・メナー(von Löwis of Menar)

ドイツのフォン・レーヴィス・オブ・メナーの名をロシア昔話の話型目録の編集者に掲げることには疑問のむきもあろう。しかも、彼が作成したものは話型目録ではなく巻末の類話対照資料である。しかし、アアルネの話型目録を早くもロシア昔話に適応した点では、見落とすことはできない人物である。ドイツのスラヴィストであるが、残念ながら彼の詳しい経歴はわからない。著作には、『ロシアにおけるブルーンヒルト伝説』(1923年、ライプツヒ)などあり、訳書には『ロシア昔話集』(1921年、イエーナ)、『フィンランドとエストニアの昔話集』(1912年、イエーナ)等がある(いずれも筆者未見)。彼は1922年には『ロシアの昔話と伝説』全二巻(ベルリン)を編集している。これはロシア語の原文のまま編集されている昔話集で、翻訳ではない。序文もロシア語で書かれている。さらに、この2巻本の昔話250話(アフナーシェフ昔話集の1897年第3版

と1914年第4版に準拠)、伝説33話に関して、巻末に類話対照リストが掲載されている。これには編者名が載せられていないが、2巻本の編者のA. F. フォン・レーヴィス・オブ・メナーであろう。このリストはアフナーシェフの昔話番号の後に類話となる昔話の掲載されている昔話集とその昔話番号(書名だけのものもある)が記載されている。さらにアアルネの話型目録やグリムの昔話(KHM)番号も加えられている(表5)。例えば、「馬とテーブルかけと角笛」はアアルネでは563番、グリムではKHM36、オンチュコフでは16番の昔話が類話となっている。本編の昔話は同一の話の類話を掲載している場合には、当時のアフナーシェフの昔話集の分類に従って、aとかbの類話の区別がされている。しかし、リストの方では必ずしもすべての類話に注が施されているわけではない。例えば、「足のない英雄と目の見えぬ英雄」ではa、b、cの類話が収められているが、aとbに対する類話注しかない。

参考にされた昔話集と研究書は39冊に及ぶ。当時のロシア昔話の類話を分類したリストとしては、画期的なものであった。編者がFFの活動に精通しており、FFの研究活動の成果といえなくもない。残念なことに、出版地がベルリンであり、ソヴィエト本国でどのような評価を受けたかは不詳である。

4 1920年代の話型目録編集 - ヨーロッパとソヴィエト

4. 1 ヨーロッパの状況

1910年代、アアルネの話型目録以外には、FFCでは3冊の話型目録が編集されただけである⁽¹⁶⁾。FFC以外にも編集の試みはされているが、アアルネの目録のように「実用性と便利さ」を兼ね備えたものはなかった。話型目録の準備と同時にアアルネは精力的にモノグラフを発表し、「歴史・地理学的研究方法」の基礎を確立していく。(なお、アアルネの詳しい業績はAndreev1926、Krohn 1926を参照されたい。)20年代はアアルネらの活動を軸に、活発に話型目録編集作業が進められる。以下に20年代に発表された昔話の話型目録のリストを掲げる。このリストから1920年代の昔話研究の活発さと話型目録編集への情熱がうかがえ知れるだろう。また、アアルネの話型目録が広く受け入れられたことも理解できる。(括弧内は掲載誌ないしは出版地。*印はアアルネの話型目録に準じないもの。)

- 1920 A. アアルネ「フィンランド昔話の類話(補遺)」(FFC33)
- 1921 R. Th. クリスチアンセン「ノルウェー歴史資料刊行委員会から刊行されたノルウェー昔話」(クリスチアナ)
- 1921 V. ティレ「ボヘミア昔話話型目録」* (FFC34)
- 1921 M. メイヤー「フランドルの昔話」(FFC37)
- 1923 - 31 J. ポリフカ「スロバキアの民間説話話型目録」全5巻(マルチン)
- 1925 J. クヴィックスタット「ラップ族の昔話と伝説の類話」(FFC60)
- 1925 - 28 J. デ・フリース「インドネシアの寓話と昔話の話型目録」(ライデン)
- 1926 O. ローリッツ「リヴォニアの昔話と伝説の類話」(FFC66)

- 1926 M. H. イーストマン「妖精譚、神話、伝説の話型目録」(ボストン)
 1927 K. ペンツァット「話型別に整理した東・西プロシアの昔話と笑話」(ケーニヒスベルク)
 1928 S. トンプソン「昔話の話型目録」(FFC74)
 1928 A. シュレルス「ルーマニアの昔話と類話の話型目録」(FFC78)
 1928 H. ホンチ「出版されたハンガリー昔話の話型目録」(FFC81)
 1929 E. スヴェインソン「アイスランド昔話の類話の話型目録」(FFC83)
 1929 - 37 V. ティレ「チェコ昔話話型目録」全2巻(プラハ)

これ以外にも、この時代には伝説や寓話などの話型目録も編集されている。このように、1920年代は話型目録増産の時期であり、昔話研究が大きく展開した時期であった。こうした話型目録はFFCに発表されるものが多かったが、FFCには話型目録を利用したモノグラフ(歴史・地理学的方法あるいはフィンランド学派的方法による)が多く発表されている⁽¹⁷⁾。

そして、1920年代の締め括りは、1928年のスティス・トンプソンによる「昔話の型」(FFC74号)の発表である。これはアアルネの話型目録を英訳し増補・改訂したものである。これが昔話研究にあっては「バイブル」と化し、今日まで昔話の分類・整理は、国際的にはこの語型目録に従うことになる。アアルネが付した番号はトンプソンによって増補・改訂されたため、以後「Aarne-Thompson」番号(略してAT番号)と呼んでいる。昔話の題名を言わずに、AT+数字で昔話を示すという形が慣例になっている。この話型目録改訂は、ソヴィエトの研究者、H. アンドレーエフ(Андреев)にも影響することになったが、この点は後述する。

昔話研究は国際的な協力のもとに進められる時期となった。1921年にトンプソンがインディアナ大学に職を得て、アメリカがフォークロア研究の拠点になっていく。そして、トンプソンとヨーロッパの研究者らの交流が続き、「フィンランド-アメリカ学派」と呼ばれるまでの昔話研究の一大学派が成立する。1924年にはトンプソンが自らヨーロッパに滞在し、話型目録改訂作業に取り掛かることになる。そして、1925年にアアルネの死という重大な事件があった。

彼の死の前後から、昔話研究は「フィンランド学派」のみならず、学派に批判的なグループも含めて活発に展開していくことになった。1920年代は「昔話研究の黄金時代」であったといっても過言ではなからう。

4. 2 ソヴィエトの状況

1920年代のロシア・フォークロアの状況は坂内(1981)に詳しいが、ここではアアルネの評価を検討する。

1920年代に大きな評価を受け、昔話研究に多大な影響を与えた彼の話型目録は、ソヴィエトでも受け入れられた。この話型目録が評価され、活用されるのは1920年代後半であり、ソヴィエトのフォークロア研究が大きく前進する時期である。また、これは国際的にアアルネの話型目録の評価が定まり、これを利用した協力、研究が進められている時期とまったく一致する。

いちはやく公正な評価を与えたのは、C. Ф. オリデンプルク (Ольденбург) である。彼によれば、アアルネの話型目録は「既存の話型目録のうち、もっとも完全なものであり、もっとも良く体系化されたもの」⁽¹⁸⁾である。アアルネの分類原則を率直に受容はしなかったが、「諸民族の昔話の分類作業における重要な一歩」⁽¹⁹⁾であったと述べた。1924年に活動を再開するロシア地理学協会民族学部門昔話委員会の座長を勤めていたオリデンプルクはアアルネの話型目録をソヴィエトの昔話研究に実践的に応用することに骨を折った。彼の監修のもとに刊行された委員会の機関誌には、新しく採集された昔話の概要にアアルネの話型目録の引用が付された。手稿資料にも同様の引用がされている。これによって、ソヴィエトの昔話資料の整理はかなり進んだ。また、1926年発行の『芸術フォークロア』第1号巻末の国立芸術アカデミー・フォークロア小部門彙報ではアアルネの話型目録の利用についての言及がある。

さて、20年代前半の活動を簡単に振り返ってみたい。

1921 全ソ地方研究学第1回大会

1923 国立芸術科学アカデミー文学部門にフォークロア小部門設置
「郷土研究」誌創刊

1924 ロシア地理学協会民族学部門昔話委員会活動再開

1925 レニングラード大学言語文化比較研究所「生ける過去」部門設置

1926 「芸術フォークロア」誌創刊

「シベリアの生ける過去」誌創刊

「民族学」誌創刊

革命の混乱期を経て、学問体系樹立の模索期に入った学界であったが、実に活発に行動している。さらに、この時期に刊行された数多くの著作にも注目する必要がある。これは、20年代のヨーロッパ各国の史資料保管館の設立、盛んなフィールド・ワーク、多数の著作の刊行といった事業と全く一致するのである。この時期のソヴィエトの学界は、模索期にあってもかなりヨーロッパ指向であったことが考えられないか。F. オイナス (Oinas) はソヴィエトのフォークロア研究の「黄金期」が革命後の10年間にみとれると私信で述べている。この点は『スラヴ評論』誌に掲載された論文でも、彼は指摘をしているが⁽²⁰⁾、坂内は「あまりに楽観的で図式的である」と反論している⁽²¹⁾。だが、この20年代を生き抜いた研究者たち、とりわけトンプソンとインディアナ大学で同僚であったオイナスにしてみれば、国際規模で研究が促進されたこの時期は「黄金期」としかいいようがないのであろう。

もちろんアアルネの話型目録に不満を述べる研究者も多かった。そのうちの一人がプロップである。彼は1928年に出版された名著『昔話の形態学』の中で次のように評している。「この目録は、国際的に常用されるようになり、昔話研究に、きわめて大きな貢献をしました。アアルネのインデックスのおかげで、昔話を数字にコード化することもできるようになりました。つまり、アアルネは、話の筋を話型と呼んでいるのですが、そのどの話型にも、番号が打たれています。一定の約束に基づいた短い表記の仕方は、大変便利なものです。しかし、この索引は、こうした長所と共に、一連の本質的な欠陥ももっております…彼の索引は、実際に役立つ便覧として重要なのであり、そうした便

覧としては、これは、はかりしれず大きな意義をもっています。しかし、アアルネの索引は、その他の点では、危険です。これは、実際のところ、誤った考えをふきこむものだからです。実際にきっちりと話型に分けられているかという点、そういうことはないのです。そうした分類は、虚構である場合が非常に多いのです。話の筋は、たがいに近似しているものですし、[ひとつの筋を別の筋から]完全に客観的な仕方で区別することはできませんから、テキストをいずれかの話型にわりふらねばならない時には、どの番号を選ぶべきなのか分からなくなるという場合が、多いのです。話型と規定されるべきテキストとの間の対応が、ごく近似的なものにすぎないということも多いのです…ある一群の話に関しては、アアルネは、自らの原則から逸脱さえしており、まったく思いがけず、しかも、かなり首尾一貫しない仕方で、筋に基づいて分類する代りに、モチーフに基づく分類に移行したりしているのです…。」⁽²²⁾

そして、このように活発にフォークロア研究が進められ、プロップの批判と裏腹に、アアルネの話型目録が利用されるなか、ロシア昔話の話型目録編集が取り組まれたのである。

4. 3 H. アンドレーエフの話型目録

1925年に発行された『郷土研究』3/4号の297 - 298頁に「昔話の語り手と調査者に関する手引き」が掲載されている。これは、昔話採集のさいの指針である。これには昔話を記録したさいには、既存の昔話と一致する場合は、その昔話集の昔話番号を記載するように指示がしてある。アアルネの話型目録の利用が述べられてないのは、一般には知られていなかったのと、FFCが入手不可能であったためであろう。しかし、おそらくこの時期には、アンドレーエフの話型目録の編集はすでに進められていたと考えられる。1926年に、彼は『昔話委員会報告1924 - 1925』に「アアルネ・システムとロシア昔話の目録化」と題する論文を、国立芸術科学アカデミー・フォークロア小部門では「ロシア昔話の筋一覧への若干の資料(ロシア昔話とA. アアルネの昔話目録にある多様なジャンルの相互関係の比較)」と題する報告を発表した。『芸術フォークロア』第1号には、「アンティ・アアルネ」と「1917年からのFF Communications」の2論文を発表し、翌27年に刊行された第2号では「ロシア昔話の筋の概要」を発表する。この論文で、すでに『アアルネ体系による昔話の筋の目録』が印刷中であることを述べており、さらにアアルネの話型目録の翻訳・増補をもとにした自分の『目録』編集集中に抽出された、両者に共通する話型、どちらか一方に特徴的と思われる話型を紹介している。アアルネの昔話の分類法には問題があり、ロシア昔話がすべて彼の分類に従って配置できるものではないことなどの指摘もある。また、『目録』の概要も説明され、その意気込みがうかがえる。

M. アザドフスキー(Азадовский)は1927. 11. 6付のポリフカ宛の手紙で、アアルネ型の話型目録がソヴィエトでも発行されることを伝えている。「…レニングラードへ行きました。昔話委員会の活動がたいそう盛んです。おそらく今年、アアルネの目録がH. アンドレーエフの増補と訂正を施されてロシア語に翻訳、出版されるでしょう。彼が翻訳者でもあります…。」⁽²³⁾

ところで、アンドレーエフの『目録』の序文には1927. 1. 31の日付が記されている。つまり、1927年には、遅くとも1928年初頭には発行されるはずであった。ところが、1928年にアアルネの話型目録がトンプソンの改訂・増補をされ、英訳が発表されるに至って、『目録』の発行を延期せざるをえなくなる。増補版の発行について、アンドレーエフはFFの予告あるいは海外の研究者らからの連絡によって事前を知っていたと思われる（エストニア在住でFFの中心人物のひとりのW. アンダーソン（Anderson）あたりが知らせた可能性が高い）。このあたりの詳しい事情が定かではないのは残念である。序文の付記として、次の一文が記載されている。「すでに本書が完成したあとで、アアルネ目録の新しい改訂版が発行された。この版では多くの新しい型が設定され、逆にいくつかの型が基本的な一覧表の中には入れられていない（特別な対照表が巻末に掲載されてはいる）。また、番号が変更されている場合が多い。新版は、たしかに旧版に変更が加えられているし、国際的な動向から見て、統一された体系を維持することは重要であるので、本目録中でも訂正箇所を一致させるべきであろう。可能な箇所では、こうした訂正を施した。しかし、いくつもの箇所で、技術上の理由から番号の修正は不可能であることがわかった（原則としては修正が好ましくないことが判明したこともある）。このような場合には、同じ箇所に古い番号を示してから新しい番号を設定した。括弧をつけて古い番号と新しい番号を併記した場合もある。そのほか、[両目録番号の]対照表を付す。これによって、新旧の体系を簡単に対照することができる。」⁽²⁴⁾これに、1928. 11. 20の日付がついている。かなり急な作業が施されたわけである。そして、1929年になって、ようやく『アアルネ体系による昔話の筋の目録』が出版された。21冊の昔話を利用して編集されたこの話型目録は、1930年代から約50年に渡って昔話整理に利用されることになる。この話型目録とトンプソンによる1928年版の比較は重要な問題であるが、これは改めて稿を起こすことにしたい。とくにアンドレーエフが序文中で、自分の話型目録は翻訳ではないと述べていることもあり、ロシア昔話の研究には極めて興味深い問題を持つといえる⁽²⁵⁾。

5 1930年代から戦後へ

1929年のアンドレーエフの『目録』は1920年代のロシア・フォークロアの大きな、そして最後の成果であった。1930年代のフォークロア研究は明らかに変質を遂げる。この点について坂内は次のように論じている。「第1回ソビエト作家同盟大会（1934）のゴリキイ演説によるフォークロアの肯定的価値の歌いあげ、それを契機とした研究者の組織的統一と採集、その成果として『ソ連邦諸民族の創造』（1938）の刊行、デミヤン・ベードヌィ作『勇士』のフォークロアの扱い方をめぐる大論争（1936）と翌年のユーリイの論文によるフィリーナ起源論争に対する結着、1936年の民族学研究所フォークロア部門会議におけるプロープ、アンドレーエフらの自己批判は、顕著に、ソ連民俗学の変貌を示すものであろう。」⁽²⁶⁾

1930年代のソヴィエトでは、偏狭で非現実的なアカデミズムを乗り越え、マルクス・レーニン主義の原則と方法が表に立つのである。共産主義建設にフォークロアが利用されることになったのだ⁽²⁷⁾。

30年代半ばにアンドレーエフらの「フィンランド学派」がヨーロッパ的なブルジョア研究であると退けられ、影を潜めることになる。しかし、彼の話型目録は退けられることはなく、昔話集にはアンドレーエフの『目録』番号(AA+数字で示される)が添えられる。30年代の沈滞、40年代の世界大戦と終戦、復興の間に、この語型目録が改訂されることなく利用されていく。アンドレーエフは改訂・増補を初めから意図していたが、かなわぬ夢となってしまった。

このような状況は、実はFFの側でも同じであった。FFCで発表される話型目録も、昔話からその他のジャンルの話型目録(例えば、伝説、笑話など)の編集にとってかわられる。30年代から40年代にかけてFFCに発表された昔話の話型目録は、FFC90、101、120、128、132号のわずかに5冊であった。

そもそも話型目録の大御所であるトンプソンが、昔話の分析単位を「型」(type)から「モチーフ」(motif)へと移して行き、1932年から1936年にFFC106 - 109、116、117号で、「民間文学のモチーフ・インデクス」を発表する⁽²⁸⁾。

また、「昔話研究国際会議」が1935年にはスウェーデンのルンドで、1937年にはイギリスのエジンバラで開催された。ここでは、全欧米的な研究が討議されたよりも、「サロン」的な雰囲気の出会いの場であったと伝えられる。1935年の会議では話型目録の再編集も検討されたが、成果はなかった。1938年には第1回国際民俗学会議がパリで開催され、「民間説話」小部門が持たれた。これもまた、1920年代の勢いを取り戻すほどのものではなかった。

このような状況には、ソヴィエトのみならず欧米でもフィンランド学派に対する批判が続出したことがある。FFの中心人物であったフォン・シュドウも従来の昔話伝播説に批判を出し、「オイコ・タイプ」(oico type)という概念を持ち出して新しい昔話理論の構築を目指す。アメリカでもフィンランド学派の理論では説明しきれない説話伝播を迫及していた。ここで注意しておくべき点は、1930年代の展開が「フィンランド学派」の旗のもとに、あるいはFFの旗のもとに国際的に展開したわけではないが、重要な理論も数多く提起されていることである。勢いこそ減じてはいたが、研究は衰えることはなかった。しかし、1930年代から1945年代までの国際情勢の中で、各国が「ブロック化」と同時に、本来は国際的な比較研究を必要とするボーダレスの昔話も、政治という体制にとりこまれ、研究も同様に「ブロック化」するのである。ヒトラーはグリム昔話をゲルマン民族優勢の証とし、ソヴィエトは Kommunismus 建設の旗印に昔話を利用した。日本では「軍国少年桃太郎」が登場した。

そして世界大戦によって、研究交流はほとんど跡絶えることになった。トンプソンの『民間説話』の第4部第2章の注釈にもこのことが簡単に触れてある。1946年6月の日付があるが、第4部第2章を脱稿後に世界大戦が終結し、その後の調整期間を経て、戦後の昔話研究の状況がわかってきたとしている。エストニアとリトアニアの痛手が大きいが、全般としては研究者たちが無事であることを記している⁽²⁹⁾。

このように、1930年代から終戦までは、ソヴィエトだけではなく世界規模で昔話研究が政治という体制に組み込まれ、ボーダレスの研究は望めなかったのである。

6 戦後の話型目録編集

6. 1 戦後の状況

戦後の昔話研究史あるいは学説史については、包括的な記録はいまだにない。各国別の史料から再構築をしなければならない。話型目録編集に関しては、戦後は大きな取組みはなかった。既存の話型目録が改訂され、あるいは増補されるという作業が中心であった。トンプソンの話型目録は1961年、FFC184号に彼自身による最終増補版が発行され、今日の決定版となっている。

1940年代後半から1950年代の期間については、復興期ということもあり、目立った動きはなかった。世界的な規模での研究が再開されるのは1960年代に入ってからである。1958年に、国際的な昔話研究誌として西ドイツ中心に『ファーブラ』誌が創刊される。1959年にはコペンハーゲンでInternational Society for Folk - Narrative Research (ISFNR) の大会が開催された。この大会で、トンプソンは話型目録の増補を発表し、30年後に再改訂する必要性を論じた。FFCは戦時中も休刊せずに発行され、国際的な研究誌としての位置を不動のものにしていた。1962年にISFNRが正式に発足してから、昔話研究は20年代の勢いを取り戻し始めるのである。

戦後、昔話研究の「空白地域」の話型目録も少しずつ発表され、現在ではほぼ世界中の昔話の話型目録が整備されている。ゲッチンゲン大学の昔話研究所 (Märchen Institut) には世界中の昔話集が寄せられ、話型目録に従って整理されている。すでに30年の期間を経過しているが、この研究所自体が話型目録として機能しているためか、書籍としての話型目録の改訂版が発行される兆しはない。ISFNRは1992年にインスブルックで国際大会を開催するが、アナウンスメントによれば、話型目録ではなくモチーフ・インデクスの改訂がインディアナ大学のリンダ・デク (Linda Dégh) を座長に論じられることになっている。このような動向の中にはソヴィエトも当然加わっており、現在の国際学界でソヴィエトの研究者は無視できない大きな存在になっている。

6. 2 戦後のロシア昔話の話型目録編集

6. 2. 1 B. プロップ

戦後最初のロシア昔話の話型目録はB. プロップによる。ただし、これは1957年に刊行された、彼の校訂になるアフナーシエフのロシア昔話集 (第6版) の巻末に付けられた話型目録であり、独立の「話型目録」ではない (表6) 。

表に見られるように、アンドレーエフの『目録』に準拠し、編集方法も同じである (番号の打ち方など。下位区分はA、B … で表示する、その他) 。目録番号のあとに話型名、その概要、類話のある文献略号とその番号ないしは掲載頁が記載されている。「目録」番号もアフナーシエフの昔話に相当するものを基礎番号にしているのも、欠番も多い。例えば「動物昔話」では、5 - 9番が欠番、20番はアンドレーエフでは20A、B、Cと

下位区分されているが、プロップでは20Aのみが記載されている。話型名が変更されているものがいくつかある。例えば、300Aはアンドレーエフでは「大蛇退治の勝利者」、プロップでは300が「大蛇退治の勝利者」とされ、300Aは「救い出された王女」など。話の概要は、だいたい同じであるが、これも括弧がはずされたり、名詞の数を変えられたりしている。

プロップが述べているように、この目録は完全な形でのロシア昔話の話型目録を意図したものではなく、アフナーシェフ昔話集の利用者の便宜をはかるものである⁽³⁰⁾。つまり、この昔話集にはどのような昔話の筋(сюжет)があるのか、分布の程度、類話は存在するのか、そしてどこに存在するのかを解明する補助として編集されている。

彼はアアルネの分類には批判的であるが、この解説ではとくには批判は述べていない。アアルネの話型目録は世界中で使用されていると述べるに止めている⁽³¹⁾。プロップの話型目録は、結局、アアルネの話型目録の価値を認めるものになった。完全な、そして独立した一冊の話型目録ではないにしても、67冊の資料(雑誌も含む)を使用しており、アンドレーエフの話型目録以後約30年間の資料の追加による増補の役割を果たすものとなった。

6. 2. 2 ロシア昔話から東スラヴ昔話へ

プロップ以後20年間は、新たな話型目録の発行はなかった。昔話集では、アンドレーエフの「目録」番号が長きに渡って付されることになる。それは、欧米の研究者たちも1961年に話型目録の改訂版発行後、それを決定版として新たに話型目録改訂を施さなかった状況に似ている。『ファーブラ』誌で扱われた昔話については各号の巻末に目録番号(AT番号)一覧が付され、新しい昔話集は、前述のドイツの昔話研究所に集められ、AT番号が付されるという作業も進められる。ロシア昔話に関しても、新刊が発行される度に、昔話研究所に収集されている。

先にも述べたが、1962年ISFNRの正式発足により欧米の研究者が、一同に会することができるようになった⁽³²⁾。ソヴィエトからもK. チストフ(Чистов)などが熱心に参加している(彼は副会長も勤めた)。1960年代後半から70年代にかけては、世界規模での交流が復活したのである。そのような時代にあって、新たな話型目録を編集する必要はなかったともいえる。しかし、ソヴィエト国内では欧米的な研究は「ブルジョア」的なものとして把握されていたため、新しい話型目録の公刊はまだまだ実現不可能であったと考えられる。

世界規模での交流は、昔話の「比較研究」の必要性を大きく求めることになった。その中で、資料大国でありながら、完全な話型目録のないソヴィエトは「白紙地域」として、話型目録編集の要求は外部からの方が大きかった。国際的な学界動向との係わりは明らかではないが、1979年によりやく待望の新しい話型目録が発行された。Л. Г. Барак(Барак)らの編集になる『話型の比較目録：東スラヴ昔話』である。この話型目録の最大の特徴は、東スラヴ昔話の「比較目録」であり、ロシア昔話単独の話型目録ではないことである。これはアンドレーエフの話型目録に準拠しつつ、これまでに刊行された資料

を駆使して、ロシア、ウクライナ、白ロシアのそれぞれの昔話の類話の在処を明確にしている(表7)。

興味深い点としては、アアルネの話型目録が世界的にその価値を認められていることを指摘し、その必要性を論じていることである。FFCの話型目録が今後も可能な限り増補・改訂され、スラヴ関係の資料が利用される必要性があることも指摘している。さらに、スラヴ全般に渡る「比較目録」の編集を意図している点も見逃せない。また、巻末に地区別の昔話の分布状況、東スラヴ昔話に伝統的な話型混交(コンタミネーション)の一覧、アンドレーエフの話型目録の番号とトンプソンの番号の比較対照表などの資料もつけられ、国際的な動向と慣習を踏まえた話型目録といってよいものである。

編集方法はアンドレーエフを踏まえているが、番号の訂正、新番号の設定なども見られる。そのような場合は、301D*=AA301*Cという形で示されている。前部は新番号であり、後部はアンドレーエフの話型目録の番号を意味する。また、西スラブとの比較を意図し、J. クシジャノフスキー(Krzyzanowski)の『ポーランド昔話の話型目録』(1962-63年)の番号をKで示し、訂正などがある場合には282A*=AA*284=K299のように指示されている。

この話型目録によって認定された東スラヴ昔話の話型は、次のようになっている。

	ロシア	ウクライナ	白ロシア
1. 動物昔話	119	336	87
2. 本格昔話			
a) 魔法昔話	225	225	199
b) 伝説的昔話	106	132	118
c) ノヴェラ	137	143	69
d) おろかな 悪魔の話	84	78	60
3. 笑話	562	425	357
合計	1233	1339	890

例えば、「動物昔話」の番号は1-299であるが、さらに下位区分されている。そのため、113番は113*、-113**、-113C*、-113C**、-113D*、-113E*、-113F*に分けられる(113番という話型の昔話は東スラヴでは設定されておらず、従って目録では113*から始まる)。それぞれの下位区分がひとつの話型として、別個の昔話としてみなされるので、7つの話型が存在する計算になる。この数の偏りは地域の特徴とは言い切れず、編者らが断っているように、調査量などにも関係してくる。他の民族の話型認定数は定かでないので比較することは難しいが、例えば池田弘子による日本昔話の話型目録では動物昔話は112話型認定されている。

新しい話型認定は数多くあり、先に掲げた113番系は今回新しく認定された番号である。なお、トンプソンの話型目録では、113番については、113、113A、113B、113*の4話型のみである。東スラヴ昔話の種類が多さがわかるであろう。

この話型目録が国際的な昔話の比較研究に大きく貢献したことはいうまでもない。ここで目論まれているスラヴ民族全体の比較話型目録が編集されれば、昔話研究はすばら

しい発展を期待できることになる。また、新たに編集されるであろうFFCの話型目録に、莫大な資料を提供していくことは明らかである。

7 ソヴィエト諸民族の話型目録編集

この『話型の比較目録』によってアンドレーエフと「フィンランド学派」的方法の「普遍性」が一部復権されたという見方⁽³³⁾は適切であろうが、一考の必要はあろう。ロシア昔話においては、アンドレーエフ以後プロップの話型目録を除けば、この『話型の比較目録』まで何ら編集の試みはなされなかった。しかし、白ロシアやソヴィエト諸民族ではそれぞれの昔話の話型目録が編集されている。その点では、主要な民族の話型目録は揃っているわけであり、『話型の比較目録』発行以前からアンドレーエフと「フィンランド学派」的方法の「普遍性」は、目録に関しては、承認ずみともみてとれる。このような議論については、今後、国際的な学説史の中でロシア・フォークロア研究史をとらえなおすことによって新たな解答が見つかる可能性は十分にある。

以下、ソヴィエト諸民族の話型目録編集を概観しておきたい。

ロシア昔話以外では、ウクライナ昔話の話型目録が30年代後半にアンドレーエフによって編集されており、トビリシ国立文学館に原稿が保存されている。白ロシアに関しては、『話型の比較目録』の編者のひとりであるバラクが1968、1971、1978年に話型目録を発表している。オセツ昔話は1958 - 1960、1972年に、グルジア昔話は1961、1977年に、カレリア地方の昔話は1963、1967年、モルドヴァでは1947年にそれぞれ話型目録が発表されている。バルト三国は、エストニア昔話が1918年、ラトビア昔話が1949年に、リトアニア昔話が1936 - 1940年に話型目録に編集されていて、FFCの話型目録には早くから資料として利用されてきた。また、戦後には、ラトビア昔話は1977年に、リトアニア昔話は1973年に話型目録が編集されている。最近では、マリ昔話の魔法昔話のみ話型目録がC. サビトフ(Сабитов)によって1989年に編集されている(宮廻1990)。その他、ウドムルト、サーム、バシュキール、タタール、チェバシユの話型目録がある。バラクがバシュキール昔話の話型目録をロシア語で編集中であると、サビトフは私信で伝えてきた。モルドヴァ昔話の話型目録は編集後約45年経過しており、周辺地域では新しい目録を望んでいるようであるが、彼らの最大の関心は目下民族歌謡にあり、実現は無理らしいという(サビトフ私信)。

この多くがアンドレーエフの話型目録に従っている点は見逃せない。スラヴ系民族の比較話型目録の構想の中で、フィン系民族の比較話型目録も構想されているが、いずれにしてもアンドレーエフとトンプソンの話型目録が基礎として利用されることは明らかだ。

なお、他のスラヴ系民族でもそれぞれの話型目録を編集しているが、ここでは言及しない。

8 結語

本稿では、ロシア昔話の話型目録の編集を国際的な動向と絡み合わせて辿る試みをなした。従来、一国のフォークロア研究史の中でしか扱われない話型目録編集史をこのような形でまとめてみることによって、いくつかの興味深い事実が明らかになったわけである。アンドレーエフやフィンランド学派に対して1930年代後半に批判が行われ、彼自身自己批判をしたにもかかわらず、アアルネを基礎にするアンドレーエフの話型目録はほぼ50年に渡って利用されてきたし、その話型目録をもとに新たな話型目録編集を試みて成功させた研究者もソヴィエト国内に存在している。つまり、ソヴィエトの場合、国内の政治イデオロギー的なあるいは学説理論的な問題で、1930年代以降話型目録編集が取り込まれなかったことだけを指摘するのは不適切であり、世界的な学界の動向とほぼ一致するような状況を見て取る必要が生じてきた。

ソヴィエトが国際的な動向から無視されていたわけでもない。例えば、FFC68号のM. アザドフスキーの「シベリアの女の語り手」(1926年)は世界中に影響を与えた昔話の語り手研究である。このモノグラフ発表以後、ソヴィエトの語り手研究は多くの研究者の関心を呼んだ。その意味では、ソヴィエトと欧米諸国の学界動向には「交通」があったわけであり、その「交通」部分を軽視しては、結局双方のフォークロア研究史を見落とす危険もあるといえる。

「黄金」の1920年代、「暗黒」の1930年代といえ、ソヴィエト・フォークロア研究では軽率な断言と批判される可能性はある。しかし、このような状況は欧米諸国でも見られるものであり、全体的な研究史の中でそれぞれの動向を再検討する動きがあってもよかろう。本稿では話型目録編集を事例にして、その再検討を試みてきた。このような試みは今後、学説史全般に広げていかなければならない。近年、例えばアメリカでは American Folklore Society 設立100年を記念して、アメリカにおける学説史がまとめられている(1986年の「アメリカ・フォークロア研究」や1988年の「アメリカ・フォークロア研究史」など)。北欧でも、フィンランドのトゥルク大学に設置されている北欧諸国共同利用施設である北欧フォークロア研究所(Nordic Institute of Folklore)で学説史を編集していることは『通信』などで知らされている。こうした研究を利用して、今後ロシア・フォークロア史を世界的な同時代性の中で辿り直すことは決して無駄ではない。ステイス・トンプソンのような優秀な研究者によって、「国際フォークロア研究史」がまとめられることもあろうが、今こそ世界規模での交流によって、共同作業が進められることが強く期待できる時代である。本稿は、その一環としての研究ノートであることを最後に付記しておく⁽³¹⁾。

(1991. 8. 21)

- 注 -

- 1 ここでいう昔話は学術用語として使用されるものであり、「民話」などとは正確に区別されなければならない。「動物昔話」「本格昔話」「笑話」を含む民間説話をここでは「昔話」と呼ぶ。
- 2 参考文献参照
- 3 参考文献中 Thompson 1946 の第4部「民間説話の研究」に詳しい。
- 4 「話型目録」は Type Index の訳語である。これについては、「話型目録」「話型カタログ」「話型索引」「話型インデクス」「タイプ・インデクス」などいくつかの呼称がある。本稿では、そのような名称を一括し、一般名称として「話型目録」と記す。
- 5 本稿での書名(論文名)はすべて日本語訳を利用する。ただし、学会名については原綴のままとする。これは、日本語名称について現在も学会で論争があるからである。1989年の日本口承文芸学会総会でも、ISFNRの日本語名称について、その Folk-Narrative の概念とともに疑問が呈された。FFについても定訳はなく、慣例としてFFの略語を用いている。American Folklore Society についても、Folklore を「民俗学」と訳してよいかは問題がある。なお、研究所名についても問題はあがるが、学会名ほどの疑問は呈されていないので、とりあえず訳語を利用した。
- 6 Stith Thompson, *The Folktale*, Berkeley, 1946, p. 392.
- 7 前世紀の研究については、Thompson 1946、Aarne 1913、プロップ1986などに詳しい。
- 8 Stith Thompson, *The Folktale*, Berkeley, 1946, p. 413. (訳文はS. トンプソン、荒木他訳、『民間説話』(下)社会思想社、1977年、212頁を利用した)
- 9 *Ibid.*, p. 413-414.
- 10 George Gomme, *Handbook of Folklore*, London, 1890, p. 135.
- 11 Kaarle Krohn, "Antti Aarne," *FFC*, No. 64, 1926.
- 12 *Ibid.*, p. 3.
- 13 *Ibid.*, p. 3.
- 14 FFCは書籍と同じように一巻一著者である。現在は250号まで発行している。編集主管はフィンランドのラウリ・ホンコ(Lauri Honko)。FFは会員制度の組織ではなく、FFC発行母体の組織として存在しているだけである。
- 15 V. プロップ、斎藤訳『ロシア民話』せりか書房、1986年、108頁。
- 16 O. ハックマン「フィンランド系スウェーデン人の昔話カタログ」(FFC6号、1911年)、A. アアルネ「フィンランドの昔話の類話」(FFC5号、1911年)、同「エストニアの昔話と伝説の類話」(FFC11号、1918年)。
- 17 この歴史・地理学派の本来の目的は、昔話の原型と発生地を探ろうとするものである。そのために話型目録から同一の昔話を探り出し、それぞれの昔話を地図上に置き直してその分布状況を検討していく。FFCには話型目録ばかりではなく、それを利用したモノグラフが多く発表されている。例えば、アンドレーエフは「二人の大悪党の伝説」(FFC54号、1924年)「盗賊マデイの伝説」(FFC69号、1927年)を執筆している。また、カザン大学元教授で、革命時にタルトゥーに亡命するウォルター・アンダーソンの「皇帝と僧侶」(FFC42号、1923年)は歴史・地理学的研究のバイブルのひとつであった。アザドフスキーの「シベリアの女の語り手」(FFC68号、1926年)は、語り手研究の最高の論文とされている。
- 18 Л. Бараг и др., Сравнительный Указатель Сюжетов: восточнославянская сказка, Л., 1979 г., стр. 7.
- 19 Там же.

- 20 Felix Oinas, "Folklore and Politics in the Soviet Union," *Slavic Review*, No. 32, 1973, p. 45.
- 21 坂内徳明「ソ連邦民俗学の形成 — 1920年代前半のユーリー・ソコロフを中心として —」『一橋論叢』第85巻第4号、1981年、110頁。
- 22 V. プロップ、北岡他訳『昔話の形態学』白馬書房、1983年、19-21頁。
- 23 A. Горелов, Из истории русской фольклористики, Л., 1978 г., стр. 223-224.
- 24 Н. Андреев, Указатель сказочных сюжетов по системе Аарне, Л., 1929 г., стр. 12.
- 25 アンドレーエフの話型目録はヘダ・ジェイソン(Heda Jason)による英訳があるが筆者未見である。彼女からも入手不可と知らされている。1920年代後半にM. アザドフスキーが、話型目録などの編集作業に取り組んでいたS. トンプソンに資料を送っていることがJ. ドウ(Dow)によって知らされている(Dow 1974: ix)。その資料はインディアナ大学図書館に収められているとのことである。
- 26 坂内徳明「ソ連邦民俗学の形成 — 1920年代前半のユーリー・ソコロフを中心として —」『一橋論叢』第85巻第4号、1981年、126頁。
- 27 30年代の状況はOinas 1973などに詳しい。
- 28 モチーフ(motif)も昔話研究概念のひとつであるが、その定義については今だに議論されているので、ここでは解説をさけておく。「モチーフ目録」という呼称は用いないので、慣例的に「インデクス」としておく。
- 29 Stith Thompson, *The Folktale*, Berkeley, 1946, p. 405.
- 30 В. Пропп, "Указатель," Народные русские сказки, т. 3, М.-Л., 1957 г., стр. 455.
- 31 Там же.
- 32 ISFNRには日本からの参加も多く、筆者も会員である。ドイツのWalter de Gruyter社から発行・発売されている『ファーブラ』誌が事実上の学会誌になっていて、同誌はInternational Journal of Folktale Studiesと記されている。ただし、学会費の中に購読料は含まれていないという変則的な形である。ISFNRの活動は、フィンランドのトゥルク大学に設置されている北欧フォークロア研究所の『通信』を通じて連絡される。本部は同研究所内に置かれ、現在の会長はノルウェーのベルゲン大学のレイモンド・クヴィデラント(Reimund Kvideland)である。『通信』で知らされる新会員にはソヴィエトの研究者も多い。
- 33 坂内徳明「現代ソ連におけるロシアフォークロア学の動向とその問題点」『社会学研究』第23号、1986年、23頁。
- 34 本稿は、1990年度鈴川基金奨励研究の研究成果の一部公表である。ホスト教官の望月哲男先生、資料探索に関して多大なる便宜を図って頂いた秋月孝子先生を初め、スラブ研究センターのみなさまに記して感謝する次第である。また、1990年12月にロシア史研究会、スラヴ談話会合同例会で本研究に関して発表の機会を作って頂いた上智大学の外川継男先生と麻布学園の加藤史郎先生にも記して感謝する。またマリ自治共和国のマリ国立大学のサビトフ博士からは、私信でさまざまな情報を提供していただいた。

参考文献

- Antti Aarne, "Verzeichnis der Märchentypen," *FFC*, No. 3, 1910.
 _____, "Übersicht der mit dem Verzeichnis der Märchentypen in den Sammlungen Grimms, Grundtvigs, Afanasjews, Gonzenbachs und Hahns," *FFC*, No. 12, 1912.
 _____, "Leitfaden der vergleichenden Märchenforschung," *FFC*, No. 13, 1913.
 James Dow, "Translator's Introduction," *A Siberian Tale Teller* (by Mark Azadovskij in *FFC* No. 68, 1926), Austin, 1974.
 George Gomme, *The Handbook of Folklore*, London, 1890.
 Hiroko Ikeda, "A Type and Motif Index of Japanese Folk-Literature," *FFC*, No. 209, 1971.
 Lauri Honko, "Methods in Folk-Narrative Research: Their Status and Future," *Ethnologica Europaea*, 11, 1980.
 Kaarle Krohn, "Antti Aarne," *FFC*, No. 64, 1926.
 Maria Leach, ed., *Standard Dictionary of Folklore, Mythology and Legends*, San Francisco, 1981.
 Felix Oinas, "Folklore and Politics in the Soviet Union," *Slavic Review*, No. 32, 1973, pp. 45-58.
 _____, "Folklore Activities in Russia," in *Folklore Research around the World*, ed. by Richard Dorson, Bloomington, 1961.
 Victor Terras, ed., *Handbook of Russian Literature*, New Haven, 1985.
 Stith Thompson, "The Types of the Folk-Tale: Antti Aarne's Verzeichnis der Märchentypen translated and enlarged," *FFC*, No. 74, 1928.
 _____, *The Folktale*, Berkeley, 1946.
 _____, "The Types of the Folktale: A Classification and Bibliography," *FFC*, No. 184, 1961.
 Н. Андреев, "FF Communications с 1917 года," *Художественный фольклор*, No. 1, 1926 г., стр. 99-104.
 _____, "Antti Aarne," *Художественный фольклор*, No. 1, 1926 г., стр. 105-106.
 _____, "К обзору русских сказочных сюжетов," *Художественный фольклор*, No. 2-3, 1927 г., стр. 59-70.
 _____, *Указатель сказочных сюжетов по системе Аарне*, Л., 1929 г.
 Л. Бараг и др., *Сравнительный Указатель Сюжетов: восточнославянская сказка*, Л., 1979 г.
 А. Горелов, *Из истории русской фольклористики*, Л., 1978 г.
 В. Пропп, *Морфология Сказки*, Л., 1928 г.
 _____, "Указатель," *Народные русские сказки*, т. 3, М.-Л., 1957 г., стр. 454-502.
 А. Смирнов, "Систематический указатель тем и вариантов русских народных сказок," *Изв. ОРЯС*, X VI, 1911 г., стр. 95-124; X VII, 1912 г., стр. 131-175; X IX, 1914 г., стр. 103-130.
 Ю. Соколов, *Русский Фольклор*, Москва, 1941 г.
 関 敬吾「訳者あとがき」『昔話の比較研究』A. アールネ著、岩崎美術社、1969年、113-120頁。
 坂内徳明「ソ連民俗学の形成 — 1920年代前半のユーリー・ソコロフを中心として —」『一橋論叢』第85巻第4号、1981年、107-129頁。
 _____、「現代ソ連におけるロシアフォークロア学の動向とその問題点」『社会学研究』第23号、1985年、129-252頁。
 V.プロップ、北岡誠司他訳『昔話の形態学』白馬書房、1983年。
 _____、斎藤君子訳『ロシア昔話』せりか書房、1986年。

宮廻和男

三原幸久「世界の『話型索引』と『モチーフ索引』の作成と歴史と現状」『世界口承文芸研究』第1号、1979年、141-160頁。

宮廻和男「ロシア昔話話型目録 作成の歴史(概要)」『昔話伝説研究』第13号、1987年、79-87頁。

_____、「マリ・フォークロアの動向 — 1985-1987年」『法政人類学』第45号、1990年、3-11頁。

301A *Quest for a Vanished Princess*. Turns in cooking dinner. Episode with the dwarf. The hole in the lower world and the rescue of the princesses (from a dragon or the like; cf. Type 300). The treacherous companions. Parts II, III, IV, V of the analysis above.

Finnish 85; Finnish-Swedish 9; Estonian 23; Livonian 4; Lithuanian 61; Danish: Grundtvig No. 5A; French 10; Spanish 1; Catalan: Amades Nos. 9, 71, 111, 164, cf. Nos. 16, 39; Flemish 18; German 105 (Archive 102, Henssen Volk No. 122a + 122b); Italian: D'Aronco *Fiabe* 75 (Tuscan [301 a, c, e—h, n, s, t] 9, Sicilian 10, Gonzenbach Nos. 58, 59, 61—64); Rumanian 15; Hungarian 55; Slovenian 1; Serbocroatian 3; Polish 1; Russian: Azadovsky *Russkaya Skazka* Nos. 10, 21; Greek 48, Hahn Nos. 26, 70, Dawkins *Modern Greek Folktales* No. 26; Turkish: Eberhard-Boratav No. 72 38; Arab: Littman 136ff.; India 1; — Spanish-American: Hansen (Chile) 1, (Puerto Rico) 1, cf. 301**C (Puerto Rico) 1; American Indian: Thompson *C Coll* II 409ff., cf. also (Zuni) Boas JAFLL XXXV 76 No. 4.

表1. S. トンプソン「話型目録」(1961年版)

301. Die drei geraubten Prinzessinnen:
 A. Männer gehen auf die Suche nach den verschwundenen Prinzessinnen; kochen abwechselnd das Essen; Episode mit dem Zwerg; einer der Männer durch ein Loch unter die Erde und rettet die Prinzessinnen (vom Drachen u. a., vgl. N:o 300); die Gefährten ziehen ihn nicht wieder empor, aber er rettet sich schliesslich (Grimm N:o 91, Gg N:o 5 A).

表2. A. アアルネ「話型目録」

A. N. Afanasjew (A. H. Афанасьевъ), Народныя русскія сказки.

Afan.	Märchentypen	Afan.	Märchentypen
	I	7	(852, 1960 G)
	(Moskau 1863.)	8	1450, 1384, 1210, 1263
I a	1, 2, 3, 4, 30, 43	9	1696
I b	15	10	1415
I c	43	16	1641
I d	37	18	564
I e	1030, 154	19	563
3 a	480	20	851
3 b	313, (428)	21	502, 300
4 a u. b	1121, (327 A)	23 a	402
5	301 A	23 b	402, 302
6	301 A	24	302, 301 A
7	(884)		

表3. A. アアルネ「グリム、グルトヴィッヒ、アファナーシェフ、ゴンツェンバッハ、ハーンの昔話集のなかで、互いに一致する昔話について」

1. Лиса и журавль зовутъ другъ друга въ гостя.

Афанасьевъ 13 (Тверской губ.). Лиса зоветъ въ гости журавля и угощаетъ изъ плоскаго сосуда; журавль уходитъ ни съ чѣмъ. Журавль, въ свою очередь ставитъ угощеніе въ кувшинѣ; лиса уходитъ «не солоно хлебавши». — Афан. 13, дополн. вар. Имѣется слѣдующая подробность: по справкамъ лисы (по книгамъ) журавль доводится ей троюроднымъ братомъ; этимъ и объясняется ихъ взаимное угощеніе. — Ровинскій I, 86 (болѣе подробная книжно-обработанная передача).

表4. A. Смирновъ「ロシヤ民間昔話のテーマと類話の体系索引」

1. См. Смирновъ 1 No. 17, 18, 19, 34, 12, 5; Aarne No. 1, 2, 4; КИМ. No. 73, 74; Bolte-Polivka 2, 201 къ No. 83; Колмачевскій 57, 68, 169. — Къ сказкамъ о животныхъ ср. сочинение Вл. Боброва, Русскія народныя сказки о животныхъ, Варшава 1909.
2. Смирновъ 1 No. 10, 11; Aarne No. 15; КИМ. No. 2.
3. Смирновъ 1 No. 34; Aarne No. 43.
- 4b. Смирновъ 1 No. 5 (С. замѣчаетъ «церковно-книжную обработку» этой сказки); КИМ. No. 86; Колмачевскій 93.
5. Начало: см. Аѳ., Лер. No. 33; Bolte-Polivka 2, 511 къ No. 112. Смирновъ 1 No. 9.

表5. А. фон-Левис-Об-Менар「ロシアの昔話と伝説」巻末の類和対照リスト

301. Три царства: золотое, серебряное и медное (ср. 300).

А. Герои идут на поиски за исчезнувшими царевнами; поочередно варят обед; мужичек с ноготок, борода с локоток; один из героев через отверстие спускается под землю и спасает царевен от змея и т. п.; спутники не вытаскивают его из ямы, но он в конце концов спасается.

В. То же самое, но с вступлением: сылч и его спутники (Вырвидуб, Верфигора и пр.; см. 650 А).
ВР II 91, III 166.

(А—В) А 71 а—с, 72, 73 и примеч., 79, 80, 81 а, b, 93 а, (95 примеч.), (96); Аз 7; К (10), 11; Ж Ст 300—301, 357—365; ЗВ 45 (= Ж Ст 275—278), 84; ЗП 22, (43), (59); И 4, 5; (Кл 10); (Кор XV); Кр I 1—33, (43), I 2—(10), 31; О 34, 79, 107, 241; Сиб 14, 17; Ск 79, 105, 153; См (11), 31, (160), 340, 361; X I 2, II 42, 43, 45, III 81, 82, (108, 117); Э 4, (29), 41.

表6. Н. Андреев「Аарне体系による昔話の筋の目録」

301. *Три царства: медное, серебряное, золотое.* Герои идут на поиски исчезнувшей царевны; в лесу поочередно варят обед; мужичок с поготовок калечит старших братьев, младший его побеждает. По следам мужичка он спускается под землю и в трех царствах — медном, серебряном и золотом освобождает трех царевен. Его братья или спутники не вытаскивают его обратно, но он всё же выбирается на верхний свет (ср. 300). — Лф. 128—132, 139—142, 156, (161), 559; Худ. 2, 42, 43, 45, 81, 82, (108, 117); Эрл. 4, (29), 41; Еф. (10), 11; Ив. 4, 5; Красн., вып. 1, № 33, (43), вып. 2, № 10, 31; Онч. 34, 79, 107, 241; Жив., стар. 275, 300, 357; Пермск. 22, (43, 59); Вятск. 45; 84; Сок. 79, 105, 153; См. (11), 31, (160), 340, 361; (Кор. 15; Кал. 10); Аз. 7; Сиб. 14, 17; Карп. 14, 41, 89, 124; Оз. 26; Инк. 15; Ск. Сар. обл. 124; Ск. Кр. кр. 18; Волжск. 3; Верхнел. 7, 8, 23; Вост. Сиб. 22; Корг. 11, 12; Вор. 10; Чкал. 203; Госп. 18; Ков. 8, 32; Белом. 73; Уральск. 7; Горьк. 91, 96; Пушк. 2; Сказк. 10; Волог. 13; Омск. 9. — ВР II 91, III 166.

表7. В. Прупп「目錄」

301A, В *Три подземных царства:* герои идут искать исчезнувшую царевну; поочередно варят обед; старичок с поготовок калечит братьев или спутников силача, но терпит поражение в схватке с ним; тот по следам старичка спускается под землю или (реже) поднимается на гору, освобождает трех царевен и, несмотря на предательство братьев (спутников), не пожелавших вытащить его обратно, возвращается наверх (на гигантской птице); приходит на свадьбу царевны и мнимого ее спасителя (ср.: 974); женится на ней.

Р. Сказка о золотой горе, или Чудные приключения Идана, восточного царевича. Сиб., 1782; Лекарство от задумчивости, с. 98—131 (=Ровинский, I, 36, с. 124—133=Афанасьев, 562=Сказки XVI—XVIII вв., 24), 152—158 (=Сказки XVI—XVIII вв., 26); Погудка, I, 10, с. 37—47 (=Сказки XVI—XVIII вв., 47), III, 9, с. 3—18; Тихомиров, III, с. (8—15) (=Сказки XVI—XVIII вв., 7); Ровинский, I, 47, с. 182—187 (=Афанасьев, 559); Перм. сб., II, 7, с. 168—171; Афанасьев, 128—131, 139—142, 156, (161); Худяков, 2, 3, 5, (53), 61, 67, (81), 114; Эрленвейн, 4, (29), 41; Ефименко, (10), 11; Кавк., 1889, VII, с. 128—141, 1893, XV, с. 29—45; Иваницкий, 4, 5 (=Ив., 623, 631); Записки Красн., I, 33, (43), II, (10), 31; Записки РГО, 1906, XXXVII, с. (257—263); Ончуков, 34, 79, 107, 241; Резанова, (2);

表8. Л. Барак「話型の比較目錄: 東スラヴ昔話」